

「どうですか？ 私のおっぱいは美味しいですか？
遠慮せずにいっっぱい飲んで良いですからね♡」

「ん、んむぅ♡」

「何も怖くないですよ、そのまま私に身を委ねて下さいね♡
おっぱい吸いながら、そのままお漏らししましょうね♡」

「んむむ♡」





「あは♥ 坊やは良い子良い子♪ お漏らしよく出来ましたね♥」

「んむう♥」

「良いんですよ♥ いっっぱい私に甘えて良いんですからね♥ 私に甘えて、おっぱい吸って、お漏らししましょうね♥」

「ん♥」

びゅん♥

「…んふふ♥ すっかり良い子になりましたね〜
やっぱり人間の男の子って可愛いですね〜♥」

「ん〜♥ ん〜♥」

「反抗的だったこの子も、ちよつとおちんちん弄りながら、
おっぱいミルク飲ませただけで、す〜ぐ良い子になっちゃいましたね〜♥」
「んん〜♥」





「ほらあ♥ も〜とおっぱい飲んでおバカちゃんになっちゃいましようね〜♥ おっぱいちゅうちゅ吸って〜、おちんちんミルクただ漏れしましようね〜♥」

「ん〜♥ん〜♥」

「良い子良い子〜♥ 良い子良い子〜♥」

END



「あは♥ 私のおっぱいは美味しいですか？
おちんちんもこんなに硬くして…♥
本当にしようがないおじさんですね♥」



「あ♥出てる♥
私のおっぱい吸いながらお漏らししてる♥
可愛い♥」



「同族ではこんな変態プレイは
出来ないでしょう？」
「良いのですよ。」
「いっぱい私のおっぱいに甘えて下さい♡
ふふ♡」

END